

宮崎県のコウライブシ (門田裕一<sup>a</sup>, 齊藤政美<sup>b</sup>)

Yuichi KADOTA<sup>a</sup> and Masami SAITO<sup>b</sup>: *Aconitum jaluense* subsp. *jaluense* (*Ranunculaceae*) from Miyazaki Prefecture, Kyushu, Southern Japan

**Summary:** *Aconitum jaluense* Kom. subsp. *jaluense*, one of endangered species in Japan, is first reported from the northern mountains of Miyazaki Pref., Kyushu, southern Japan. The *Aconitum* population was estimated to be composed of approximately more than 1000 individuals and is the largest at least in Japan. Although another aconite, *A. japonicum* Thunb. subsp. *napiforme* (H. Lév. & Vaniot) Kadota, was also found in the lower part of the mountain, no intermediates between the two aconites were recognized in the population.

キンポウゲ科トリカブト属のコウライブシ *Aconitum jaluense* Kom. subsp. *jaluense* は絶滅危惧植物の一つとして扱われている (矢原・永田 2003; 絶滅危惧 IA 類 (CR)). 個体数は減少する傾向があるようで、かつて標本が得られているところでも今では見られないことが多い。実際、島根県、福岡県、香川県などの産地で調査を行ったところ、コウライブシを見出すことができなかった (Kadota 1987)。2008 年に行った大分県竹田市周辺の調査ではコウライブシとタンナトリカブト *A. japonicum* Thunb. subsp. *napiforme* (H. Lév. & Vaniot) Kadota との自然雑種と推定されるものは認められたものの、コウライブシに当たるものは得られなかった。ところが、著者の一人齊藤が 2009 年 10 月に宮崎県北部の山岳を訪れたところ、ここでコウライブシの大群落を見出したので報告しておきたい。

コウライブシはこれまで宮崎県からは報告がなかった (例えば、平田 1984 など)。一方、ツクシトリカブト *A. callianthum* Koidz. [in Bot. Mag. (Tokyo) 33: 118 (1919)] が同県北部・大崩 (おおくえ) 山群の洞岳 (どうだけ、原記載では、「mt. Tôgatake」とある) から記載されている。ツクシトリカブトのホロタイプはコウライブシとタンナトリカブトの自然雑種とみなされている (Kadota 1987)。このことから、コウライブシそのものが

宮崎県に分布する可能性もあると考えられてきた。

問題のコウライブシの群落は標高約 1,500 m の山頂付近 (石灰岩地) で見出された (Fig. 1A)。この群落の個体数を目視で概算したところ、千個体は下らない数であった。著者の一人門田は朝鮮半島や中国東北部でもコウライブシを観察した経験があるが、千個体を超える群落は極めて規模の大きいものであるといえる。昨今、九州中央部の脊梁山地ではシカの食害が著しいが、本植物は有毒植物であるため食害を免れているらしい。今回初めて見出されたのでこの群落の個体数の増減についてはもちろん不明だが、他の植物がシカに食われてしまうため、逆にコウライブシの個体数は増加傾向にあるのではないだろうか。他の山域での経験 (例えば、紀伊山地や四国山地におけるカワチブシやシコクブシの個体数) にもとづくと思われる。

このコウライブシ群落は規模が大きいことその他にもう一つの特徴がある。それはこの群落が他種 (国内ではタンナトリカブト) との交雑の影響がほとんど認められないことである。それは群落を構成する個体の花梗の有毛性に見られる (Fig. 1B)。すなわち、花梗には滑面の開出毛が全面にわたって見られ、先端部にやはり滑面の腺毛が見られることにある。タンナトリカブトとの交雑が起きると、表面に低平なイボ状突起のある粗面屈毛が出現する。この粗面屈毛はタンナトリカブトの標徴形質の一つである。このような雑種性の顕れは東北地方のウゼントリカブト *A. okuyamae* Nakai (花梗に滑面開出毛と滑面腺毛が生える) とオクトリカブト *A. japonicum* subsp. *subcuneatum* (Nakai) Kadota (花梗に粗面屈毛が生える) との人為的交雑によって確かめられている (門田 未発表)。

実際、標高約 1,200 m の登山口付近にはタンナトリカブトそのものが生育し、このトリカブト群落はタンナトリカブトと、コウライブシとタ



Fig. 1. *Aconitum jaluense* subsp. *jaluense* in Miyazaki Pref., Kyushu, Japan. A. Population at the summit area located on calcareous rocks (October 2009). B. Pedicel covered with smooth-surfaced patent hairs and smooth-surfaced glandular hairs. Photos by M. Saito.

ンナトリカブトとの交雑由来の個体から成っている。これまでに調べた限りでは、従来コウライブシが生育することが知られていた産地ではコウライブシに相当する個体は既になく、コウライブシとタンナトリカブトとの自然雑種のみが得られている（例えば、前掲の大分県竹田市とその周辺など）。

山頂部のコウライブシ群落及び登山口のタンナトリカブトと雑种群落は現在では生態的に隔離されているようだ。しかし、将来的には山頂部の群落と登山口の群落の交雑が起こり、純粋なコウライブシは失われて行くものと思われる。

本稿で検した証拠標本は国立科学博物館 (TNS) に収めた。

#### 引用文献

- 平田正一. 1984. 宮崎県植物誌. 377 pp. 宮崎日日新聞社, 宮崎.  
 Kadota Y. 1987. A Revision of *Aconitum* Subgenus *Aconitum* (*Ranunculaceae*) of East Asia. 249 pp. Sanwa Shoyaku Co. Ltd., Utsunomiya.  
 矢原徹一 (監修), 永田芳男 (写真). 2003. ヤマケイ情報箱 レッドデータプランツ. 719 pp. 山と溪谷社, 東京.

<sup>(a)</sup>国立科学博物館植物研究部,

<sup>(b)</sup>Department of Botany,

National Museum of Nature and Science,

4-1-1, Amakubo, Tsukuba, 305-0005 JAPAN;

E-mail: kadota@kahaku.go.jp

<sup>(b)</sup>宮崎県総合博物館,

<sup>(b)</sup>Miyazaki Prefectural Museum of Nature and History,  
 2-4-4, Jingū, Miyazaki, 880-0053, JAPAN)